令和８年度　藤枝明誠高等学校　中間学校評価

※評価基準　A：十分に実践されている　B：ある程度実践されている　C：不十分である　D：わからない

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」「自然愛や人間愛を大切にする豊かな情操」を培う。 また、日本人としての美徳を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。						
重点目標	**Ⅰ学習指導の充実　Ⅱ 進路指導の充実　Ⅲ心豊かでさわやかな生徒の育成　Ⅳ 広報・渉外活動の充実　Ⅴ 教育施設・設備の活用**						
	項目	令和８年度具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標　※【　】は数値的目標	令和７度実施結果（成果は〇、改善すべき事項は◇） ※丸数字は左欄丸数字の項目に対応	中間学校自己評価 評価	中間学校自己評価 教員コメント（71名）	中間学校関係者評価 評価	中間学校関係者評価 学校関係者評価委員コメント（8名）
Ⅰ 学習指導の充実	授業改善への取り組み	①生徒の意欲が高まるような分かる授業を実践するとともに授業改善に努め、授業アンケートの結果向上を図る。 【授業満足度調査(生徒)を年２回実施 】 【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足の比率)95%】 ②各科、各クラス間、各教員間の指導の格差の改善を図る。 ③定期テスト後に教科会議を開催し、学力定着度の検証及び教科指導の改善を行う。 ④各教科、授業力の向上の実現に向け、研究授業を実施する。	①◇授業アンケートを２回実施し、【生徒の授業満足度(「満足」+「どちらかといえば満足」の比率)】は目標値に届かず、94.0％であった。 前年度(R6)は 93.8%。中学では「授業集団の雰囲気」、高校では「説明の内容」の項目において、満足度の比率がやや低かった。 ②◇各科、各クラス間や教員間の指導の格差がまだあるため、教科内での検討・指導等、更に改善が必要である。 ③〇教科会議を毎週行える状況(時間割)があり、指導の改善のための教科会議が実施されている。 ④◇各教科において、テーマを設定した研究授業が実施されなかった。	A 21% B 71% C 8% D 0%	・研究授業を行っている。 ・生徒のレベルをよく見て、適切な指導とは何かを考えつつ、改善に尽力している。 ・教員全体で教材研究を推進したい。 ・概ね良好な授業が展開できているが、生徒が寝てしまう場合があり、改善が必要 ・生徒の学習意欲が徐々に減退してきているように感じられ、懸念している。 ・授業公開などに積極的に取り組んでいる。 ・各教員は熱心に指導している。 ・授業者によって授業改善に差があるように感じるので、教科会議などを用いて教科全体での授業改善の機会を設けた方が良い。 ・土曜日の授業は有欠の生徒がいる場合があるので、グロースナビで課題の配信をするなど、授業のあり方を工夫した方が良い。	A 17% B 83% C 0% D 0%	・授業満足度の比率 90%以上維持しているのは素晴らしい。 ・授業の充実を図るために「授業調査・満足度調査」の実施は評価するのでそのアンケート内容を把握したい。 ・授業満足度 94.0%は高い水準にあり、研究授業や教科会議等を通じた授業改善の取組は評価できる。一方、クラス間・教員間の指導の差が課題として認識されていることから、取組の実施だけでなく、その結果として格差がどの程度改善したかを検証することが望まれる。 ・アンケートや教科会議など改善の取組としてすばらしいので、それが生徒に反映される形を常に目指していただきたい。 ・先生方が授業の質をさらに高めるよう熱心に努力されている。 ・先生同士の協働・連携は生徒の授業に対する姿勢、意欲にも影響があると思うので取組みの更なる充実を期待している。 ・目標を設定するだけでなく結果を確認し、改善し、再び実行するというサイクルの継続が重要だと思う。 ・教科会議を毎週行い、先生方が授業について情報共有や意見交換されている事を心強く感じる。より良い授業を目指して熱心に取り組んでくださっていることが伝わる。 ・有欠時に授業が進んでしまった時のフォローが欲しい。 ・全職員（教員・事務職員）から藤枝学園変革についての論文を年一回募ってはどうか。良い提案に関しては学園事業に盛り込み人事評価の加点とする。
	学力の定着と向上に向けたきめ細やかな指導	①放課後プロジェクトや「9 時まで学習」の一層の活性化を図る。 【9 時まで学習参加率 65%以上目標】 ②予習、復習、宿題の提出・点検指導等の徹底を図る。 ③英語検定指導等を継続して組織的に行う。 【英検 2 級 200 名以上、準 1 級 20 名以上】 ④学力の基礎である国語力(文章読解や表現力)の向上のための取組を行う。 【小論文指導】 ⑤国際教養教育を推進する。 ⑥普通科生徒の学力・学習意識向上のための指導を実施する。	①◇図書室における放課後プロジェクトの参加は前年並みであった。 〇例年以上に職員室及び職員室前フロアで、積極的に個別指導を受ける生徒は増加した。 〇「9 時まで学習」の参加率は、70％程度で前年度のより上昇し、数学・英語における共通テスト対策講座・旧帝対策講座の参加は盛んであった。 ②〇各教科・各学年において、細かな指導が実践された。また『明誠ダイアリー』を利用した学習習慣確立のための指導が各クラスで実施された。 ③◇【英検 2 級取得者数 202 名、準 1 級取得者数 29 名】前年より英検 2 級取得者数が 51 名減少、準 1 級が 11 名増加した。上位の級の受験推進、英語学力の全体的な底上げが必要である。 ④◇総合型選抜や学校推薦型選抜に対応していくため、志望理由書・小論文指導等の早期実施により、対策を講じたい。	A 32% B 60% C 8% D 0%	・休み時間や放課後に、職員室前で個別指導を受けている生徒や自学自習に励んでいる生徒が多く見られた。 ・同じ教科の先生同士で、良く連携がとれている。 ・クラスと教科にもよるが概ねきめ細やかな指導が展開されている。 ・放課後学習をもっと充実させ、教室に居残る生徒がより効率的に学習に取り組めるように工夫したい。 ・学科も広がり、同じ教科でも教える内容や重みづけが多様になり、連絡調整の必要性が高まっている。 ・各教員は熱心に指導している。	A 50% B 50% C 0% D 0%	・先生方は熱心に丁寧なご指導をしてくださっている。 ・放課後学習、9 時まで学習は集中して学習できる環境となっており、安心感がある。 ・生徒一人ひとりで学力や理解度は違うのでそれぞれの生徒の状況を把握し、その生徒にあった指導を行うことが大切だと思う。また、生徒自身が学習状況を把握することも重要だと思う。 ・放課後の個別指導の対応や放課後プロジェクトの管理など、先生たちの働きに感謝する。 ・放課後学習を教科別、目的別にして切磋琢磨させてはどうか。 ・夏休み前の勉強の仕方に具体的な指導があると参加者が増えるのではないか。 ・学習指導の熱心さは学年が上がるたびに感じる。

		⑦大学入試に対応した問題を定期テストに導入する。 ⑧家庭学習を充実させるため、オンデマンド教材の配信が実施できるように環境を整備し、配信を実施して学力の定着と向上に努める。 ⑨ICTを利用したオンライン授業が実施できる環境を整備し、休校時等のオンライン授業実施に備え、教員のスキル向上のための研修を行う。	⑤○Dream Gateway Program の実施、留学生の受け入れが行われ、グローカルな視点の涵養がなされた。7月には中国・重慶市の巴蜀中学校が来校し、学校交流が行われた。 ⑥◇各学年、教科毎に対応を行っているが、統一した計画による実施には至らなかった。 ⑦○各教科において、大学入試共通テストに向けて定期テスト等の工夫を行っている。 ⑧◇グロースナビを全生徒が使用できる状態となっており、到達度テストを受けての学力補充のための講座を学年・教科で積極的に配信したい。 ⑨○Wi-fi 環境及びプロジェクターの全教室設置が行われ、授業時に活用された。 ◇休校時等にオンライン授業を配信する環境の整備はなされたが、校内で利用する際に不具合が生じ、実施できないことがあった。				・ Wi-Fi 環境の改善をお願いしたい。 ・課後学習、個別指導、各種講座、ICT 活用など、生徒の学力向上に向けた多様な取組が行われている点は評価できる。一方、取組を実施したこと自体ではなく、参加率、学力の伸長、検定取得状況など、その取組がどのような成果につながったかを明確にすることが重要である。 ・職員室前を通る度によく指導してくれている姿を見かける。 ・英検を積極的に受けている印象がある。 ・グロースナビがスタディーサプリより使いづらい様子。生徒全員が有効に使用できているのだろうか。
Ⅱ 進路指導の充実	進路希望の達成に向けたきめ細かな指導	①進路講話や個別面談、総合的な学習等(キャリア教育の推進を含む)により目標設定と進路意識の早期確立を図る。 ②教員の教科・進路指導の力量向上を図る。 ③教科検討会で模擬試験結果の検討を行い、生徒各個人に対応した指導を行う。 ④生徒の満足度の高い進路指導を行い、大学への現役合格達成を図る。 【現役合格 98%】	①○高校 1 年生の進路ガイダンスでは河合塾「R キャップ」を使い、文理選択研究の一助とした。後期は外部講師による大学選びについて講演を行い進路意識の高揚に役立てた。 ○高校 3 年生対象の大学説明会、高校 2 年生対象の学部・学科説明会では 40 大学に来校していただいたが、業者と協力をし、上位校をもっと充実させたい。生徒たちは熱心に説明を聞き、進路目標の設定・進路意識の高揚に大きな意義があった。 ②◇新課程入試についての広報を心掛けたが、研修会の必要があった。 ③◇外部模試後の分析・検証の機会が持てなかった。 ④◇四大志望者の大学現役合格率は 97%程度で令和 7 年目標の 95%を上回ったが、浪人が 14 人(昨年は 15 名)で在籍数の 4.0%(合格したが、進学しない者も含む)	A 48% B 49% C 3% D 0%	・進路ガイダンス等、外部業者を利用し、進路探究が進められている。 ・総合型選抜の増加など、早期入試に対応しての指導など、丁寧に指導されている。 ・模試の回数が多いため、振り返りを行ったり、生徒が学習計画を立てるための時間が十分に取れない。 ・環境の激しい変化や新しい校務システムに対応するため、かなりの労力を要する。 ・各教員は熱心に指導している。	A 50% B 50% C 0% D 0%	・大学への現役合格率を見ても、進路実績は高い水準にあり生徒の学力や目的に合わせきめ細かい指導をしていただいている。 ・将来の目標が明確でない生徒も多いため、面談や日常の声かけを通して、生徒が興味や得意なこと、苦手なことに気付く機会をつくっていければよい。 ・早い段階から、進路目標を設定するための様々な取組はすばらしい。 ・進路ガイダンスや外部講師の活用など、早期から進路意識を高める取組が進められている点は評価できる。一方、総合型選抜の増加や進路選択の多様化など環境が変化しているため、ガイダンス等の実施回数だけでなく、生徒の進路意識や進路実現にどの程度結びついたかを検証していただきたい。変化する入試制度に対応した組織的な進路指導体制のさらなる充実を期待する。 ・夏休みの面談の時など細やかに進路について考えてくれていると感じた。 ・保護者に向けても早い段階から大学の進路ガイダンスを通して、情報を伝えている。
	難関大学等の合格に向けた指導	①国公立大学及び難関私立大学に合格できるような学習・進路指導を推進する。 国公立大学の総合型・学校推薦型選抜にも積極的に挑戦する。 【第3学年　進路目標】 東大・京大・国公立大医学部・東京科学大・一橋大→複数合格 旧帝大→10 名上合格 国公立大→80 名以上 (静岡大・静岡県立大・静岡文芸大→50 名以上) 早・慶・上→10 名以上 GMARCH・東京理科・関関同立→60 名以上 ②旧帝プロジェクト(上位層の強化) ③共通テスト対策講座	①◇令和 8 年度入試の現役生徒の国公立大学合格数は、総合型選抜・学校推薦型選抜 22 名を含み、計 72 名であった。在籍数に対する国公立合格者の割合は 21.7%となった。主な内訳は、東北大 1、名古屋大 2、地元の静岡大 19、静岡県立大 7、静岡文化芸術大学 3 名等であった。難関私大は、早稲田大 2 名、慶應義塾大 2 名、東京理科大 2 名、明治大 6 名、青山学院大 5 名、中央大 5 名、法政大 4 名、関西大 5 名、関西学院大 4 名、同志社大 1 名、立命館大 1 名であった。 ②○◇最難関大学に挑戦する学力トップ層への指導は、旧帝プロジェクトで行ったが、ノウハウを継承するためにも、中堅・ 若手職員も参加しチームでの受験指導体制を構築すべきである。 ③○各教科とも放課後の個別指導には積極的に取り組んで頂けた。また「9 時まで学習」を利用して、英語・数学・国語で旧帝プロジェクト・共通テスト対策講座を積極的に実施して頂いた。 ④○現役医学科合格はなしであった。	A 32% B 52% C 14% D 2%	・共通テストや難関大向け講座は充実している。 ・科・コースの特性に応じて全てのクラスに広げていたい。 ・個別指導を通じて実践できている。 ・東大京大研究会を有効活用するとよい。 ・個々の教員で対応している部分があり、教科・学年によって差が出る場合があるため、全体での共通理解と協力を更に進めるべきである。 ・様々な講座を開設するなどの取組は評価される。 ・各教員は熱心に指導している。 ・学校全体で支援する体制作りを進めたい。	A 50% B 50% C 0% D 0%	・テスト、講座、個別指導等様々な取り組みがなされており、先生との信頼関係は受験期のメンタル面を考えても心強い。 ・生徒一人ひとりの学力や学習状況をきめ細かく把握し、偏差値や順位を見るだけでなく「どの分野が弱いのか」「なぜ間違えたのか」を生徒と一緒に確認することが次の努力につながると思う。 ・結果だけでなく過程を考えた場合、個別指導や様々な講座が充実していることはすばらしい。 ・共通テスト対策や旧帝大プロジェクト等、上位層の学力向上に向けた取組は評価できる。一方、国公立大学等への合格実績については、設定した目標との比較により成果を客観的に評価する必要がある。難関大学への指導についても、一部教員の経験や熱意に依存することなく、中堅・若手教員を含めてノウハウを継承できるチーム体制を構築していただきたい。

		※②、③共に「9時まで学習」の時間を活用 ④医進プロジェクトで国公私大医・薬等の指導強化					・個別指導をしていただけるのはありがたい。9時まで学習でも共通テストの対策講座を実施していただけているのが評価できる。
Ⅲ　心豊かでさわやかな生徒の育成	社会性や道徳心の育成	①　礼節を重視し、様々な場面でマナーや社会的規範意識を育成する。 正門での礼や予鈴黙想の励行、HR での朝終礼時の指導・国旗、校旗の掲揚指導・校長講話等 ②　校内外の美化や教室等の整理整頓に対する指導 ③　交通ルール、マナーの指導を通し、危険察知と思いやりの心を育み交通事故防止を図る。 【交通事故0を目標】日常の交通ルール指導・自転車マナーアップ教室・街頭交通指導 道路交通法の一部改正による、自転車交通違反に反則金制度適用に対する周知のためチラシ作成・配布による指導。 安全な自転車使用のため点検整備は、自転車整備士によるものとし、TS マーク等を利用 ④徳育を強化し、思いやりの心を育成するとともに問題行動の発生を防止する。 ⑤生徒の観察、生徒面談、いじめアンケート等を活用して、いじめ防止に取り組む。 【いじめアンケート年３回実施・学校生活アンケート実施・保健室相談箱の設置】 ⑥スマートフォンの使用法など SNS についての啓発を行い、問題発生を防止する。 【「スマホ安全安心講座」実施・「スマホの 17 の約束」配布と家庭での約束作り】 ⑦教員の生徒指導力、クラス経営力向上のための研修（救急救命法、生徒指導、スマホ安全安心講座）の研修を実施する。	①礼節指導。全体的に校内での挨拶等は良好である。 ◇校外での立ち居振舞い等、明誠生徒はきちんとしているとの声はあるが、集団時での行動等一層の指導が必要である。 ②教室の整理整頓は HR により差はあるが、担任の指導により生徒の意識向上が見られる。 サッカー部、陸上部、野球部等の清掃活動は、校内や学校周辺の清掃・除草等環境美化に貢献した。 トイレ清掃・教室内整理整頓・水回りの清掃指導を実施した。 ③職員による登校時の街頭交通指導により交通安全意識の向上も見られた。生徒課による下校時の街頭指導の実施 ◇交通マナーについて、地域住民から苦情が時折寄せられた。主に一時停止不履行・併進等、職員の指導が浸透しない生徒もおり、繰り返しの指導が必要である。 ◇交通事故は、18 件と前年と同数であり減少には至らない。 ほとんどが軽微な事故であるが、重大事故に繋がらないように、また相手自動車等の不注意による事故も増加しているため、ルールの遵守と周囲の状況の確認をさせる指導の継続 ④　◇問題行動・校長指導　6件6名 校長指導・学年指導によりその後の状況は良好である。 〇各学年とも個々の生徒指導はあるが、全体的には落ち着いた学校生活を送っていた。 ⑤〇いじめアンケート年３回・学校生活アンケートの実施。いじめに関する調査、学校生活アンケートは、いじめの未然防止、友人関係の改善や生徒指導に活用した。 ⑥スマホ等の使用は、多くの生徒はルールを守っているが、校内・登下校中のルール違反等の生徒も見られるため、日々の指導を継続 ⑦救急救命法の実施による緊急時の対応・いじめに関する研修により未然防止と早期発見と対応 スマホ安全安心講座の実施によるスマホ利用の啓発 生徒支援研修会の実施による生徒理解と発達指示的生徒指導と課題予防的生徒指導	A 27% B 57% C 14% D 2%	・部活動や日常の活動の中に活かされている。 ・他校に比べ、あいさつや礼儀の指導ができている。 ・挨拶はほぼ全部の生徒がしっかりでき、気持ちの良さが伝わる。 ・部活動が盛んであり、その中で社会性や道徳心の醸成が進んでいる。 ・教員によって指導に差が出ないよう努めたい。 ・道徳の授業を活用したいが、なかなか時間がとれない。 ・対応の難しい生徒が増えており、教員の労力が増している。	A 25% B 75% C 0% D 0%	・先生方の日々の指導もあり、挨拶のできる生徒は多い。 ・自転車の走行では、ちょっとした「急ぎたい気持ち」「これくらい大丈夫」という油断が一生後悔するけがや事故につながる。毎日の通学では、ぜひ安全運転を心がけて欲しい。時間ギリギリではなく、余裕を持った行動こそ大事 ・自転車交通事故が減少していないのであれば、登下校時におけるヘルメット着用について必須とする検討を行ってみてはいかがか。 ・学校で身につけるマナーや社会的規範は単なる「校則」ではなく社会の中で人と関わり信頼関係を築くための力として捉えてなぜそれが必要か生徒自身も考えることが必要だと思う。 ・日々の生徒の挨拶や各部活で行なっている朝清掃などは大変すばらしいと思う、道徳心の向上に向けた教育も並行して行なっていただきたい。 ・気持ちの良い爽やかな挨拶です。今年は挨拶の質の良さを感じた。 ・挨拶、交通安全、いじめ防止、スマートフォンの適正利用など、生徒の社会性や規範意識を育成する幅広い取組が行われている。今後は、指導を実施したことに加え、交通事故件数、問題行動、アンケート結果等の推移から、その成果を検証することが望まれる。また、取組内容を踏まえ、評価項目名についても「規範意識・社会性・情報モラルの育成」などの表現を検討してもよいのではないか。 ・来校した時、知らない生徒からも挨拶されることがあり気持ちが良い。 ・目を見て気持ちよい挨拶ができている。 ・朝の交通量が多い時間帯に、駐輪場の横断歩道に誘導員がいてくださるので安心できる。
	基本的生活習慣の確立	①　正しい身だしなみの指導を徹底する。 学年全体校風指導年６回実施 ②　制服等の着用指導を徹底する。 ③　基本的生活習慣の指導を職員の共通理解のもとに実施する。 ④　校則の遵守 ⑤　感染症等対策の実施・健康管理指導 手洗い、うがい・手指アルコール消毒・教室の換気等の習慣化を図る。 保健室便りの発行。毎月１回「すぐーる」を利用	〇学年校風指導を6回実施。服装面で大きな乱れはない。 ・制服等の着用状況は良好である。 ・ジャージの着用は体育、清掃、作業時 〇基本的な生活習慣はある程度確立されていた。 〇生徒は校則をおおむね遵守していた。 ・スマホ等の指導に関しては日常の継続指導が必要であり、慣れからルーズにならないよう注意 〇各HRの手指消毒薬の設置継続と石鹸での手洗い、うがい、教室の換気等の指導継続	A 30% B 55% C 15% D 0%	・挨拶をする生徒が多い。 ・欠席や遅刻等、他校に比べ少ない印象がある。 ・朝礼があるのが良いと思う。 ・中学生と高校生との習慣の違いを、中学生にとってプラスに生かせる方法を工夫したい。 ・スマートフォン利用のルールを徹底させたい。 ・スマホの取り扱いと自転車マナーに問題が残る。 ・遅刻指導は減りつつあると思う。継続したい。 ・教員によって指導に差が出ないよう努めたい。 ・集会などで、臨む姿勢や身だしなみの指導を徹底したい。	A 0% B 100 % C 0% D 0%	・上品で洗練された制服なので、本来の着こなしに沿って正しく着る方が、清潔感もありスマートで素敵に見える。身だしなみはおおむね良好なので、シャツ出しの生徒さんは、1 人か 2 人であってもかえって目立った。 ・挨拶のできる生徒が多い。 ・生活習慣を身につけることは、社会に出るための大切な準備である。生徒自身が自分の生活をふりかえり、自分で改善していくことが大切だと思う。 ・規則だけではなく原則を理解し、自らの判断でも行動できるよう教育が必要

					・朝礼の時間や清掃の時間など、もっと生徒に声をかける時間を大切にしたい。 ・服装・頭髪の乱れ等、更に徹底した指導が必要である。 ・清掃への取り組みが疎かにならないよう、指導が必要である。		・挨拶、服装、清掃、健康管理等について継続的な指導が行われ、基本的生活習慣の定着に努めている点は評価できる。一方、教員間で指導に差があるとの指摘もあり、学校として共通の基準を明確にすることが重要である。生徒への個別の声掛けを大切にしながら、教職員が共通認識を持って一貫した指導を行える体制づくりを期待する。 ・校風指導のおかげで身だしなみを整える影響は大きい。 ・気持ちのいい挨拶をしてくれる生徒が多い。 ・校門の前で必ず一礼をしている姿が素晴らしい ・夏の登下校で身だしなみがくずれている様子がみられる。
	部活動の充実	① 学習と部活動の両立を一層推進しつつ、生活面での指導も強化することにより、心身を錬磨し、自律的な精神と協調性を養う。 【部活動加入率 80%以上】 ② 県大会や全国大会への出場及び各大会での上位進出を果たす。 【県大会出場～全ての部、全国大会出場～4 部】	○多くの生徒が部活動に加入している。部活動・同好会加入率約83% ○各部のテスト前の集団学習が活発に行われた。 ○各部活動生徒が挨拶・行事等、先頭に立って集団をまとめ積極的な活動が行われた。 ○大会・試合の結果のみならず、各部活動を通して人間形成にしっかりと取り組んでいる。 ◇部活生徒の登下校時の服装、早朝時の自転車走行注意 ・寮生等集団での登校時「併進、右側走行、一時停止」について指導 ・早朝練習等でのジャージ着用ランニングシューズ等での登校注意 ○チアリーディング部は全国大会で2部門での準優勝等大活躍であった。バスケットボール部の東海地区総体優勝、全国高校総体、全国高校選手権大会出場と全国での活躍があった。陸上競技部は7名の東海地区大会出場、1名の全国総体出場と県駅伝大会2位東海大会入賞など健闘した。野球部は県高校選手権大会ノーシードながらベスト4に進出するなど強豪校としての意地を見せた。射撃同好会は国民スポーツ大会、全国高校選手権大会出場等成果を上げた。サッカー部は、県高校選手権大会ベスト8。また多くの部が県大会に出場する目覚ましい活動があった。文化部では、棋道部が県大会男子団体戦で 2 位。囲碁部では女子個人で全国大会に出場。MLAC は英語ディベートでの全国大会に出場、予選リーグを突破しトーナメントに出場するなど活躍した。また、吹奏楽部も県大会コンクールや重奏コンテスト銀賞等の成果を上げた。 ○【県大会出場:ほとんどの部 東海地区大会:4部 全国大会出場:6部】	A 53% B 42% C 5% D 0%	・どの部活動・同好会も生徒が一生懸命取り組んでいる様子が伝わってくる。 ・活動環境の更なる充実を望む。 ・強豪部活が多く、高い実績を収めているが、一般生徒の活動しやすい部活動が少ない。 ・活動場所が足りていない。 ・学校生活が部活動だけになってしまわないよう、高校生としての本分の理解を徹底したい。	A 75% B 25% C 0% D 0%	・学習と部活動を高い次元で両立させていることは、すごいことだと思う。 ・目標に向かって努力する、仲間と協力する、困難なことにも継続して取り組むという力を身につけることができる部活動は大切な場だと思う。 ・熱中症に対する子供たちと指導者の理解を深め、安全第一として部活動に励んでいただきたい。 ・高い加入率のもと、多くの部活動が県大会・全国大会等で成果を上げており、生徒の人間形成にも大きく寄与していることは評価できる。一方、競技成績だけでなく、部活動非加入者の活動環境にも目を向ける必要がある。学習との両立や活動場所の確保を含め、すべての生徒が主体的に活動できる環境づくりを進めていただきたい。 ・部活動の充実が明誠の魅力の 1 つだと思う。 ・生徒と部活動顧問との良好な関係が築き上げられている。威圧的な指導がないように思う。
Ⅳ 広報・渉外活動の充実	広報活動による学校理解の促進	①広報誌の発行、ホームページの活用等様々な手段を通して、本校教育に対する保護者や地域社会の理解を深める。 ②ホームページ(HP)の更新を積極的に行い、効果的な情報発信を行う。 【数値目標 年間アクセス数 600,000 アクセス】 ③学校説明会参加者を増やす情報を提供する。 ④本校理解がより深まり、募集に効果的な内容にするために、広報誌等の見直しを行う。 ⑤地域の自治会等への情報提供や学校行事への招待等を積極的に行い、学校理解の促進と広報の推進を図る。	① ○「明誠ニュース」「進路だより」保護者会広報誌「初心」など、予定通り発行した。 ○部活動・同好会の様子を紹介し、中学生の多様性に対応できるように努めた。 ○保護者会地区会で出された質問や要望への回答を文書で配布した。 ②○HP のアクセス数が3．5%増加したが、数値目標の60万アクセスには届かなかった。 ・2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日のアクセス数 594,507 574,291(+20,216) ② ○学校説明会への参加者数(1日体験入学、直前相談会を除く)は、例年以上を確保することができた。 ・H5・1,285 人 H6・1,457 人 H7・1,728 271 人の増。 ③ ○見直しを行ったほか、国際教養コースのリーフレットを発行、配布した。 ⑤ ○入学式、卒業式、文化祭、体育大会に自治会役員を招いた。	A 36% B 50% C 12% D 2%	・公式インスタグラムを開設したことは良かった。 ・インスタ等で対外的に活動を発信するようになってきたが、アップの頻度を上げる等、更に SNS を活用した方がよい。 ・ホームページの情報発信をさらに活発にしたい。 ・紙媒体の広告活動は、コストパフォーマンスが低いと思われる。 ・すぐーる等で保護者への連絡が取りやすくなり、教育活動の理解度が高まっている。 ・中学生やその保護者の進学に対する意識の変化や、経済的な状況の変化を敏感に捉えて、募集に対するアプローチのあり方を更新していかなければならない。 ・地元の勉強・部活を両立できる生徒を多く取りたい。明誠の良さは伝わっていると思うので、志太地	A 17% B 83% C 0% D 0%	・内容:学校案内(冊子)は見やすく内容もわかりやすい。 ・部活を通しての志太地区中学生との合同練習など交流会の実施。部活を通じて中学生に明誠を知ってもらう機会を増やす。 ・ホームページでは入試情報や行事予定などを見やすくし、インスタグラムでは、部活動や行事のいきいきとした様子をより多く発信していただきたい。 ・生徒のプライバシー等に十分配慮し内容確認できる仕組みがあれば良いと思う。 ・様々な取り組みが計画、実行されていてすばらしい。 ・インスタグラムの外からの発信を期待する。 ・インスタグラムは目にする機会が多く、効果的だと思う。 ・インスタグラムで情報を知ることができる。投稿が今時ではない印象が少しあるが、楽しそうな様子は伝わってくる。

					区の生徒に興味を持ってもらえるようにしていきたい。 ・授業料無償化を生徒募集に充分に活かしたい。		・ホームページ、明誠ニュース、学校説明会、公式SNS等、多様な媒体を活用した情報発信が進められている点は評価できる。一方、ホームページアクセス数は目標に届いていないことから、情報発信を行ったことだけでなく、閲覧数や説明会参加者数、志願者数等への波及効果を検証することが重要である。媒体ごとの対象者と目的を明確にし、より効果的な情報発信につなげていただきたい。 ・特待生制度で入学する生徒が多いと思うが、授業料無償化によって特別感が減ってしまう気がする。
	積極的な渉外活動の実践	①小中学校への積極的な学校訪問等により募集の拡大を図る。併せて、入学者の増加に有効な方策を具体的かつ速やかに実施する。 ②焼津・藤枝・島田・榛原・小笠・静岡（安倍川以西）の小中学校を対象とし、組織的に募集活動を展開する。 ③学習塾への訪問を行い、募集の拡大を図る ④県外募集の充実を図り、有為な生徒の確保に努め、入試内容・方法について見直す。 ⑤「1日体験入学」「入試直前相談会」の充実、取り組みの強化を図る。 【学則定員の確保】	①○年間の生徒・保護者の総動員数は4,381人となり、昨年度（4,121人）より260人増加した。 ②○中学校訪問を職員で分担し、3年主任や進路指導主事と直接面談して募集拡大を図った。また、静岡地区では重点校を絞り募集活動を行った。 ③○職員が分担で学習塾への訪問を行った。 ④◇福岡奨学生入試は32名の受験者があったが、入学者はいなかった。札幌奨学生入試は2名の受験者があったが、入学者はいなかった。 ⑤◇1日体験入学の参加者は2,138人で昨年度より32人減少した。入試直前相談会の延べ参加者数は515人で昨年度より21人増加した。	A 41% B 49% C 8% D 2%	・AIなどを使って、ポスターや学校説明の資料などを効果的に作成できると良い。 ・地元大洲高洲にターゲットを絞り、学習支援活動をしているが、これを機に明誠を選ぶ生徒が増えることを期待している。 ・全職員を挙げて中学校回りをしていることがすごい。生徒数確保につなげたい。 ・十分できていると思う。 ・懸命になされていると思うが、残念ながらまだ結果に結びついていない。 ・プログレスコース、国際教養コースの募集活動が不十分である。	A 25% B 75% C 0% D 0%	・学校訪問、学習塾への訪問を 積極的に展開されている。 ・高校から入る生徒を大切に育て伸ばす仕組みが整っていることを、継続して発信していくことが大事だと思う。 ・新幹線利用者に藤枝明誠を知ってもらうための方策を講じてはどうか。 ・地元ラジオを活用してのイベントアピール。ラジオイベントへの参加など ・AIの情報をもとに志太榛原での地域別出生状況を踏まえた市場分析を行い、3年ごとに生徒募集計画を策定、実施する。 ・訪問先との継続的な関係づくりに加え、取組成果を定期的に確認することで、より効果的な活動になるよう期待する。 ・中学校や学習塾への訪問を組織的に行なわれていて、先生方の尽力に感謝する。 ・中学校訪問や募集地域の拡大、入試制度の見直しなど、生徒確保に向けた取組が積極的に進められている。一方、取組内容は「渉外活動」よりも生徒募集・入試広報としての性格が強いため、「戦略的な生徒募集・入試広報活動の推進」等、目的が明確になる項目名への見直しを検討されたい。また、訪問件数等の活動量だけでなく、志願者数や入学者数への効果を分析し、次年度の募集戦略に反映することを期待する。 ・学校案内のパンフレットが見やすくて良かった。良い印象を与える。
Ⅴ 教育施設・設備の活用	安全で快適な教育環境の実現	① 学習活動や部活動が安全かつ快適に実施できるよう常に配慮する。 トイレ・水場の清掃活動の徹底。教室・廊下で汚れが目立つ箇所の点検と春季休業期間に業者よるクリーニングを実施 スズメ蜂による被害防止のために春と秋の2回、駆除用具の設置を実施 ② 掃状況を具体的に指示し学年主任や清掃担当と協力して清掃指導の徹底を図る。また事後の点検では不定期で総務課による点検を行う。 教室・廊下・階段の蜘蛛の巣除去と防止のために清掃と薬剤添付の実施 ③ 破損箇所の把握と迅速な修繕を図る。【6月・11月・2月の一斉点検実施】 春季休業期間に学習用机の天板100枚を交換する。	①毎水曜日早朝に理事長点検を実施し、施設の安全を確保した。 清掃活動に力を入れた。水場・トイレ・階段の清掃状況は安定している。 トイレの床清掃などに差があるが、点検後に指示を出し随時清潔に保つことができた。 7年度より春と秋の2回スズメ蜂による被害防止のために駆除用具の設置を実施した。 テスト期間の簡単な清掃も定着しつつあるが、教室により差がある。 春季休業中に教室廊下を業者による清掃とワックスを施行。通常清掃できれいな状態の維持に努めた。 窓枠の清掃と潤滑剤の塗布によるメンテナンスを実施すると同時に、開閉に支障が出ている箇所を確認し事務から修繕の依頼を出した。 ②掃監督者と協力を図りながら清掃指導はできている。点検後の対応も早くなった。 ③破損箇所の報告と修繕は迅速に行われている。 7年度から生徒の学習机の天板交換を春季休業中に実施した。7年度は30枚交換。経費削減と備品のメンテナンスに努めた。	A 18% B 52% C 30% D 0%	・校内設備の改修が多くされて快適になった。 ・創立40周年を過ぎ、校舎等にも老朽化が見られるが、きれいに保てている。公立にはない立派な校舎が魅力である。 ・エアコン環境が整ってきたが、公立高校も同様に整ってきている。体育館等も空調が必要である。 ・エアコンのない教室や体育館、武道場などにエアコンを入れたい。 ・空調設備が不十分なように思われる。 ・トイレの老朽化が気になる。 ・教室内の整頓を普段から心がけたい。 ・施設の破損箇所などを直すシステムがほしい。 ・ところどころで不具合がある。	A 0% B 100% C 0% D 0%	・通学途中の豪雨、線状降水帯などの気象リスクに遭遇した際は先生の指示がない状況で自己判断が求められる。事前にその点についても学べるとありがたい。 ・生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全快適な教育環境を整え維持を継続していただきたい。また、生徒・先生の声を定期的に聞いて改善していただきたい。 ・清掃活動や点検などは周期性が保たれているが、熱中症対策の一つとして、エアコンのない場所（体育館や武道場）への設置は要検討の必要を感じる。 ・冷房（空調）は市・県に補助制度があるのではないか。 ・校内施設の点検・修繕、清掃、防災訓練、省エネルギー等、安全・安心な教育環境の維持に向けた幅広い取組が行われている点は評価できる。一方、トイレ等の老朽化や空調設備など、改善を求める意見も見られる。安全性・緊急性・教育上の必要性等から優先順位を明確にし、計画的な施設整備を進めていただきたい。

		④ 電気、紙等の節約を励行し、経費と資源の有効活用を心がける。 ⑤ 消灯、戸締まりの徹底を図る。 トレーニングルームの使用について注意・説明会を行う。 ⑥ 夜の施錠確認は日直と引継ぎ者の報告から不備のあった施設の管理担当に報告する。また全体への連絡により徹底を図る。 ⑦ 地震発生時の避難や防災に関する訓練・学習会を５月と８月に実施。５月は避難誘導と確実な点呼確認の実施。８月は通常の避難訓練と講師を招いての防災学習会を導入する。 地区懇談会で出た保護者からの意見・要望に毎年回答を出しているが、施設面での意見・要望については特に配慮して可能なところから改善していく。 原子力災害に対する避難計画を作成する。	④消灯、空調のスイッチオフ等の節電については、夏場を除けば改善されている。 職員への配布物に関しては掲示板を有効に活用、家庭へは「すぐーる」による配信を有効活用することができた。 ⑤全体的に未施錠件数は減少した。 ⑥5 月に防災避難訓練、8 月に防災学習を実施した。 ５月の防災訓練では通常の避難経路確認の他、消防署への連絡訓練を実施した。８月は映像を使用した防災学習会を実施した。 ⑦原子力災害に対する避難計画は未作成であった(藤枝市の指針が未発表のため)。				・男子バスケットボール部など全国でも成績を残している部活動があるのに、体育館にエアコンがないのは、熱中症などの安全面でも心配である。 ・防災訓練や防災学習ができている。大雨や台風で洪水になった場合の対応も周知しておいた方がいい。